

「笑顔の顔文字がおくれるまで」

～「伝えるのが怖い」から「伝えたい」へ～



松江市立 意東小学校
井上 賞子



事前情報で聞いていたMさんの状況

- 計算や県名を覚えるといった活動は得意。
- 読解は低学年の課題でもかなり難しい。
- 漢字については、読み、書きともに定着していない。
- 筆圧が弱く、字の形が整わない。
- 集中が続きにくく、気が向いたことしかやらない。
- コミュニケーションに課題が大きく、激しい不適應状態になることがある。

本当にそうかな？

- 確かに字の形はそろわないが、構成要素や方向性はほぼあったものが書けている。
→ 本当に書けないの？
- 家ではネットで自分の知りたい情報を検索して読んでいる。
→ 本当に読めないの？
- 6年生の算数テストを、1人で取り組んで、正確に解くことができる。
→ 本当に読解できないの？

本当にそうかな？

- 提示した情報の量が多かったり、文字情報にかたよったりしていると、課題の意図が伝わらなかったり、見通しが持てずにとまどう様子がみられるが、内容や終了の見通しが持てると、集中して取り組む姿も見られた。
- 覚えた方法は誠実にやろうとする。
→うまく入り口や方法を見つけられていなかったのではないかな？

本当にそうかな？

- 読み、書きに特異的な困難はあるだろう。
- また、情報を取得していく際の苦手さもあり、従来の学習方法の中では、失敗体験が多くなったことが予想される。
- しかし、理解力は高いことが感じられた。

「できない自分」を感じ続けてきたのでは？
学べる自分のイメージが持ててないのでは？
「学ぶ」手だてがもてていないのでは？

当初のねらい

- 代替え手段も含めて手だてを持つことで、学び切る見通しと学びやすさを支え、学習機会を保障していく。
- 「できる自分」を感じる機会を増やすことで、学習意欲を支えていく。

Mさんの本来の力が発揮できるような学び方をみつけることで、「自分是可以るんだ」という自信と見通しを持たせたい

学習の機会を保障する手だてとして 活用したMさんについて

- ① 「読み」の底上げと見通しを支えるツールとして
→ 「VoiceOfDaisy」「i暗記」「漢字ドリル」「Safari」
- ② 「書き」の見通しを支えるツールとして
→ 「小6かん字ドリル 楽しく学べる漢字シリーズ」
「camera」
- ③ 考えをまとめるツールとして
→ 「SimpleMind+」「7notes」
- ④ 思いを伝え合うツールとして
→ 「ByTalk」
- ⑤ 自己解決の拠り所として
→ ノートテイクの取り組みへ



読み

音との一致を促す
イメージ化してから読む

「できる」見通し・学習機会の保障

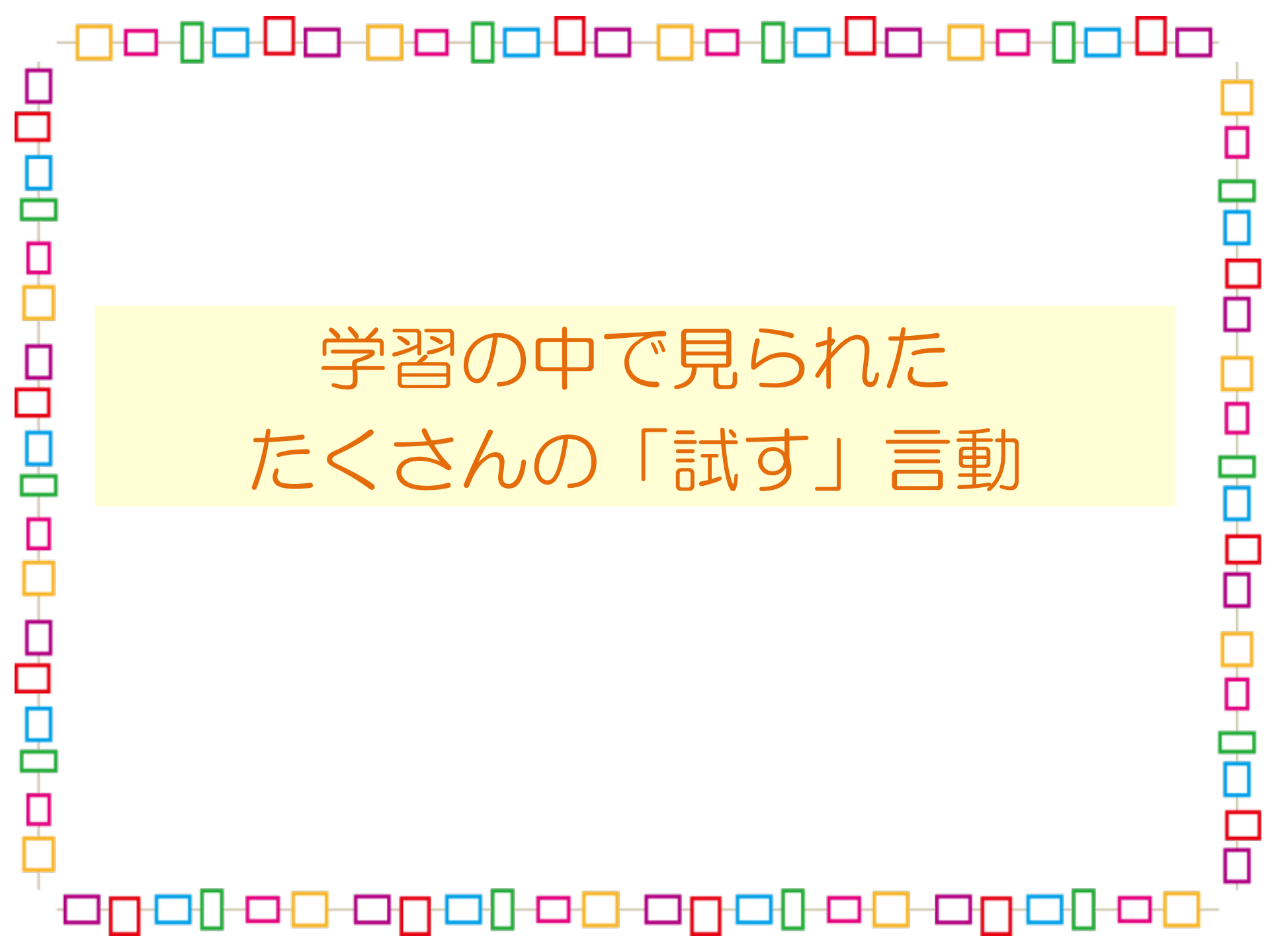
- ・6年生までの熟語が読めるようになった
- ・理科、社会の6年生の教科書を使って学習できた
- ・読解の課題にも取り組んだ

書き

確認の方法を持たせる
書きやすさを優先する

- ・想起できる文字がどんどん増えてきた
- ・浮かばなかった字も、ヒントがあれば「あっそうだった」と浮かぶようになった。

読みたい・書きたい・わかりたい



学習の中で見られた
たくさんの「試す」言動

漢字アプリを使っている時

- 漢字のアプリをやっているとき、きちんと書かなくても、始点から終点までつながっていればでたらめな線を引いても合格することに気づいた。
- ふざけて書きなぐり「ほら」こちらを伺う様子も見られたが、始点と終点の意識はできていたので、とくに咎めずに見たら、次第に普通に練習するようになっていった。



「ボールペン使っていい?」

ポソリと

M児「ボールペンの方が書きやすいんだよなあ」

井上「書きやすいならいいけど、消せないと困る時もあるから、テストは鉛筆でしてね」

M児「マジで? いいの?」

井上「いいよ」

※次の日、筆箱にはぎっしりたくさんのボールペンが入っていた。テストの時は自分で「あっ、えんぴつだった」と持ち替える。



周囲との関係の中で

もともと関わりが持てないの？

● 学びにくさが顕著になっていく時期から、不適応も大きくなっていっている。

※ 本来は関わりが持てる子ではないか？

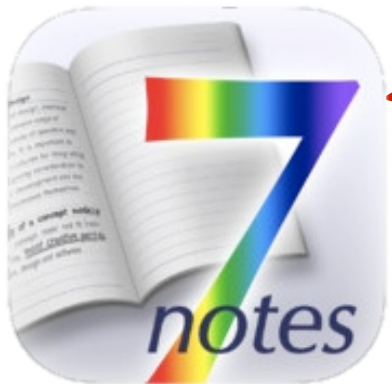
※ たくさんの失敗体験が、本人を追い詰めたのではないか？

※ 学び方の特性が理解されなかったことで、周界との隔たりが広がってしまったのではないか？

考えをまとめる



- 簡易なMindMapアプリ。
- カードを増やしたりつなぎ変えたりすることが、とても容易。



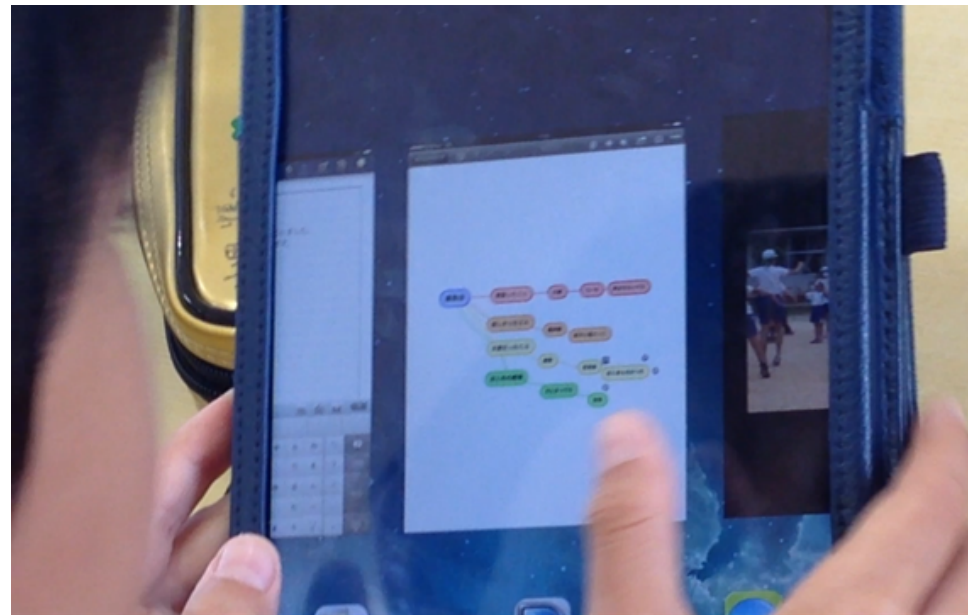
- 入力の方法を3種類の中から選べる、メモアプリ。
- 予測変換の機能を活用して、文章を入力していくことができる。

③考えをまとめる～キーワードを整理～

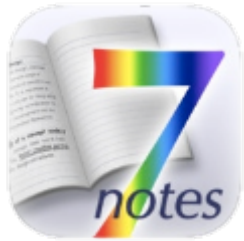


・単語を書き込んでいきながら並べなおしたりつなぎかえたりすることが容易にできるため、抵抗感少なく取り組めた。

・テーマの次に「一番楽しかったのは」等、書き出しをメモしておくことで、その先がスムーズに出てくる様子が見られた。



③考えをまとめる～入力方法を選んで～



マインドマップで作ったメモを見ながら、文章化していった。

- 3つの入力方法+音声入力ができることを伝え、入力方法を選んだ。
- 一通り全部を試してみた後、50音キーボードを選んだ。
- メモを見ながら足りない言葉を補いつつ、あっという間に作文を仕上げることが出来た。

考えをまとめる～取り組みをふりかえって～

- 運動会の作文には比較的スムーズに取り組めたが、「思いを書く」という場面になると、表情が険しくなり辛そうな様子が見られることがある。
- Mさんの中で消化できていないものがあるのではないかと推察された。
- まずは「考えたことを文章にできる」を目指して、教科学習の中で「要約」することに主に進めた。

④ 思いを伝え合う



- 閉じたSNSアプリ
- 一対一やグループを作って、やりとりをすることができる。

④ 思いを伝え合う

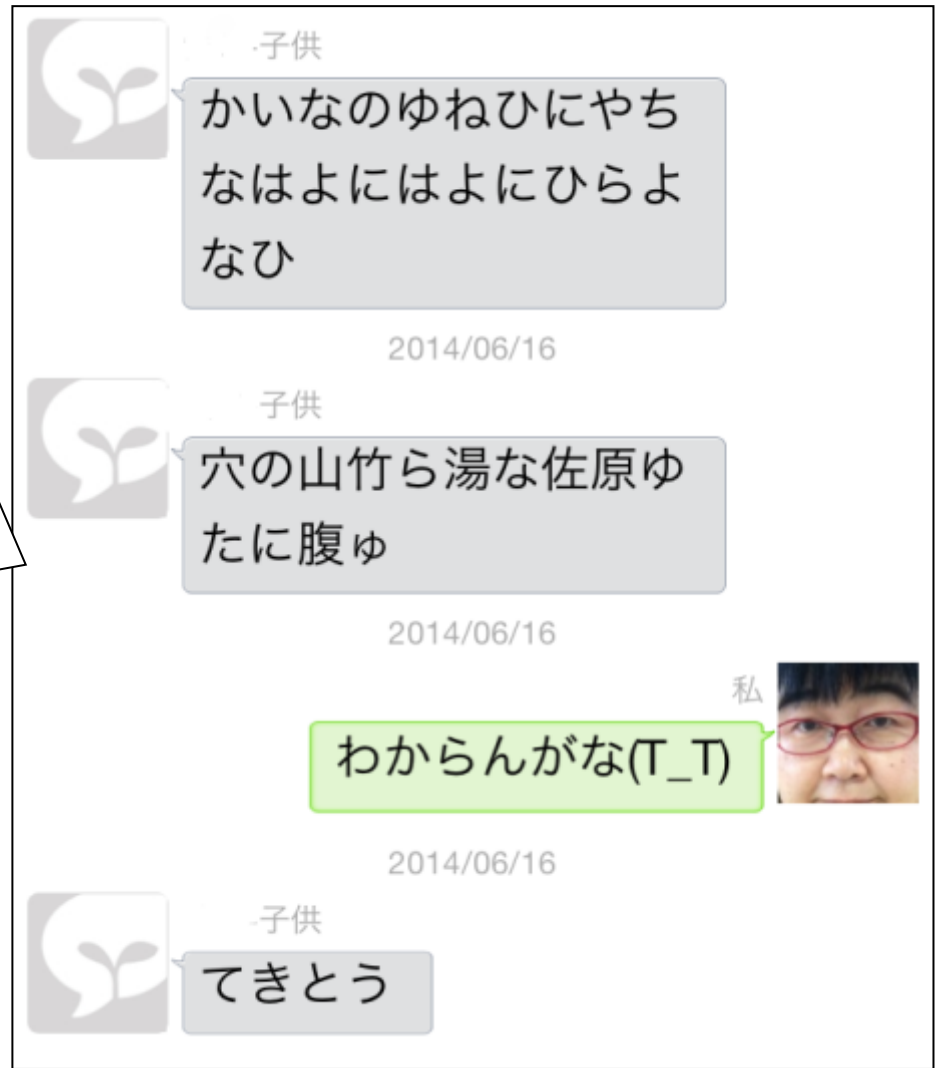


- ・リアルタイムでのやり取りが可能であり、既読を確認できることから、閉じたSNSを使うことで、まずは担任とのやりとりを広げていきたいと考えた
- ・当初はあまり興味を示さず、スタンプをたくさん押したり、キーをただ押し続けたりしたメッセージが届いていたただけだった。

④ 思いを伝え合う



適当に打ってきたときのもの。初期はほとんどこんな様子が続いていた。



子供
かいなゆねひにやち
なはよにはよにひらよ
なひ
2014/06/16

子供
穴の山竹ら湯な佐原ゆ
たに腹ゆ
2014/06/16

私
わからんがな(T_T)
2014/06/16

子供
てきとう

④ 思いを伝え合う



- ある日、理科の時間に他のipadを使ってNHKForSchoolを視聴していた際、他の児童を指導していた担任へ、リアルタイムで動画の感想を送ってきた。
- そこには本当に自然な反応が書かれており、思いを持って見ていてくれることがよくわかった。

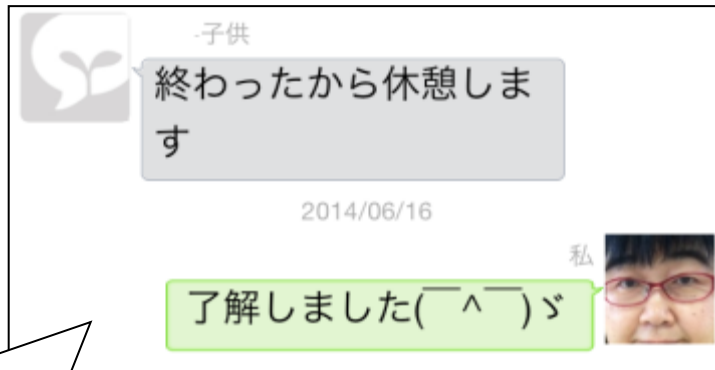
④ 思いを伝え合う



理科の番組を視聴しながらリアルタイムで感想を入れてきた時のもの



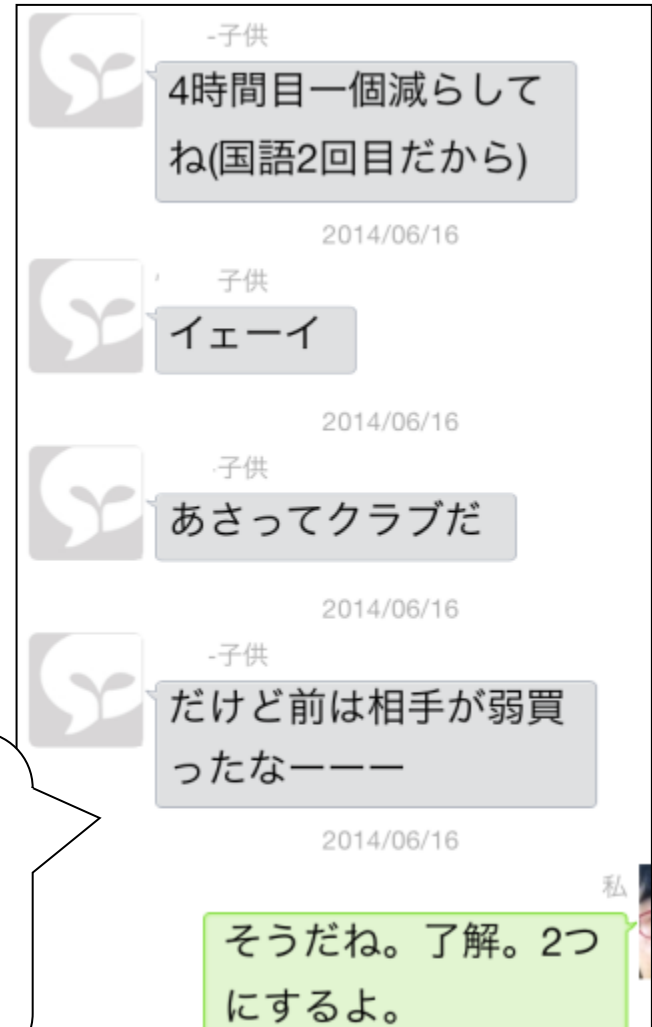
④ 思いを伝え合う



了解しました(´^`)ゞ

自分から報告を送ってきたときのもの。

国語の時間の課題数の交渉をしてきたときのもの(いつもは1時間に3つの課題)



④ 思いを伝え合う



・ 担任が不在の時より、目の前に姿がある時にメッセージが来ることが多く、本児からのメッセージを読んだ担任の様子も含めて楽しんでいる様子が見られた。



思いを伝え合う～取り組みを振り返って～

- 目の前にいてもショートメッセージを打ち込む方が、本児にとっては思いを伝えやすい時もあるように感じている。
- 「伝わる」実感が「伝えたい」思いにつながっていくように、今後もやりとりを続けていきたい。
- 上記の取り組みを重ねて行く中で、日常の会話でのやり取りもふえていった。

ICTが支えてくれたもの

伝えたいこと



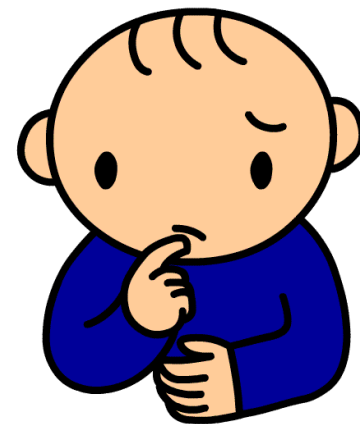
やりとり

思いがあっても、伝えるのが怖い。
どう伝えればいいのか、わからない。



否定されるくらいなら、言わない

- 意欲の減退
- 自己評価の低下



ICTが支えてくれたもの

伝えたいこと



やりとり

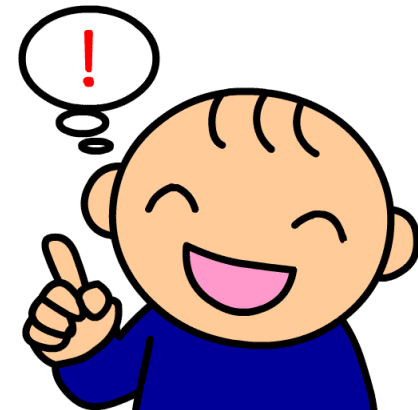
メッセージなら、書いてみて直して送れる。
お母さんのアドレスなら否定されないだろう



「この方法ならできる」見通し

- 意欲の継続
- 機会の保障

思いを伝える
相手の思いを知る
交渉と納得



卒業後の関係の中で



思考錯誤の日々

H児のことを大切に考えてくれているからこそその先生たちの葛藤



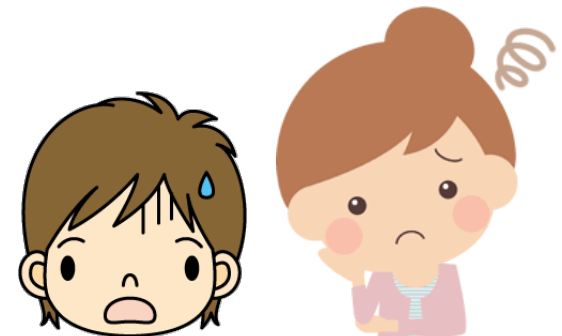
引継ぎは聞いたけれど、

- やっぱり「書けた」方がいいのでは？
- この子ならできそう。
- 安易にパソコンに頼ってしまうことにならないかな？

本人と保護者の不安と葛藤

どうすればわかってもらえるのか。。

- 厚意なのもわかるので、で言いにくい。
- やはり「書く」ことが前提になるのか。。
- 教科ごとに対応が分かれていて不安。



思考錯誤の日々

メッセージを共有してのつながり

●お母さんのアドレスでの共有

- ・「メッセージが届くと、M児が先に見て「はい」とわたす。

●M児のアドレスでの共有

- ・ちょっとした日常の出来事を井上から送信。
- ・返信を求めることよりも「ねえねえきいて」の状態
- ・時折、独り言のように季節のこと、テスト勉強の仕方などを話しかけていった。

即既読になる。「メッセージ喜んでましたよ」と母。

「自分」からの発信

- 母親経由で聞いた、期末テストに関わる本人の疑問に対して、「説明する」約束をしていた。
- メッセージで40分近く、井上の考えを伝えた。すぐに既読になる。待っている気持ちが伝わってきた。
- 「疑問があったら、また知らせてね。お母さん経由でもいいよ。たまにはスタンプを返してくれると嬉しいな」と呼びかけてみた。

M児のアドレスからの返信がスタートした

たくさんの「受信」と「方法を持つ」ことでH児は変わった



かつては・・・

- 相手から声をかけてもらえるのは安心。
- でも期待はしない。がっかりしたくないから。
- 自分から発信すねのはこわい。
- 否定されるのがこわい。

今は・・・

- メッセージが来るのが楽しみ。
- 「こんなにきた」というのは嬉しい。
- 見せたいものがある。
- 聞いてほしいことがある。
- 自分の発信への返事が楽しみ。



なぜ今なのか?

- 6年生の頃→M児が「困らない」学び方を準備
 - ・安心して学習に取り組み
 - ・学力と自信をつけた

※それは大事なことだったと思うが、「困っていない」彼は、「相談する」ことも必要がなかったのかもしれない。

※中学に入り、「学習」「試験」と、「困る」場面が出てきた→「言いたいこと」「聞きたいこと」が増えたのではないか?

小学校時代

安心できる関わり
安心できる学び

自分への自信と
人への信頼を取り戻す
「方法」を得る

しかし、「求めなくても得られる」環境においてしまっていたかもしれない。

中学校時代

学習への強い意欲
葛藤場面の増加

「聞きたい」「伝えたい」の増加
信頼感の広がり

「自分で解決しなくてはいけない場面」の増加が、「伝える」ことへの意欲につながったのではないだろうか？

$(\geq \nabla \leq)$



$(\wedge \bigcirc \wedge)$

$(\hat{\ } \nabla \hat{\ })$

彼の中にあつた、
たくさんの笑顔



「これから」に向けて

伝えるのが怖い・伝え方がわからない



自信と信頼の広がり・「方法」の取得



相談・交渉・納得へ

- 「自ら求める」ことは有効だという体験
- 意見交換したのち、自己決定する見通し
- 思いを伝え合うことで「納得」して次へ